

JRR-3 の多彩な中性子利用とユーザーフレンドリーな 供用体制の構築を目指して

Various neutron utilization of JRR-3 and
user-friendly Aiming to build a shared use of facilities system

原子力機構, °松江 秀明

JAEA, °Hideaki Matsue

E-mail: matsue.hideaki@jaea.go.jp

日本原子力研究開発機構が有する JRR-3 は (Fig.1)、中性子を利用するための熱出力 20MW の研究用原子炉です。中性子は、ラジオグラフィによる可視化、放射化分析による元素分析、回折測定による構造解析など非破壊検査から構造解析まで様々な分野で、多彩な学術研究、産業応用、に広く利用されて来ました (Fig.2)。



Fig.1 JRR-3 External view

しかし、JRR-3 は平成 22 年 11 月の施設定期検査に伴う停止以降、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災後に制定された新規制基準への適合性確認に係る審査対応を進めており、現在まで運転を停止しております。今後、適合性確認に係る審査、さらには自主安全向上の取組として原子炉建家の耐震安全性を再評価し、耐震補強工事等を行う予定であり、工事完了後に施設定期検査を受検し、運転再開予定の平成 32 年 10 月末を目指してとなる見込みです。¹⁾

今回の講演では、JRR-3 の多彩な利用装置群を使った利用事例と、原子力機構の JRR-3 供用装置群を利用するためのワンストップ窓口を目指す JRR-3 ユーザーズオフィスの取組について紹介します。



Fig.2 Various neutron utilization of JRR-3

1) JRR-3 の新規制基準適合確認への取り組み状況について(平成 30 年 1 月 24 日)

<https://jrr3uo.jaea.go.jp/pdf/topics/20180124.pdf>